



健やかに、ゆったりと、 家族の歴史をつなぐ家

狭い路地を抜けると、目の前に現れる美しい家。
すーっと伸びた大屋根と白い壁が、
周囲の緑と相まって、豊かな風景を描き出している。
抜けるような青空の下、手作りのドッグランで愛犬と戯れる若い二人。
穏やかで健やかな家族の日常。
そこには確かに、幸せな時間が流れていた。

01
—
大工集団
くじらぐみ
KUJIRAGUMI

HOUSE DATA

[所在地] 南アルプス市
[間取り] 2LDK+ロフト
[家族構成] 夫婦、犬
[竣工] 2020年11月

「ここには、じいちゃんが建てた家と古い蔵がありました。僕が譲り受け妻と住んでいたのですが、雨漏りがひどく解体して建て直すことにしたんです」と話し始めたご主人。新しい家には、長年にわたって蔵を支えてきた梁を使いたいと考えた。早速パートナー探しを始めたが、思うような相手は、なかなか見つからなかった。良い感じで話が進んでも、古材の話をするると難色を示される。「飾りとしてなら」と言われたこともあったが、望むものはあくまでも構造材としての再利用。そこは譲れなかった。一方で新たな問題も発覚した。「新築見学会などで嫌な臭いが鼻につき頭が痛くなること何度あったんです。シックハウス症候群でした」と奥様。パートナー選びは、さらに慎重になった。

何軒巡っただろう。北杜市にある「くじらぐみ」を訪ねたお二人は、それまで味わったことのない心地よさに包まれたという。「モデルハウスは素敵だけでなく、とても気持ち良くてリラックスできました」と奥様。ご主人も、「高橋社長に木のことや家の建て方などを聞くうちに安心感が生まれ、この人にお任せしたいと思うようになっていきました。古材の再利用も『できるよ』と即答してもらえ、これまでの苦労は何だったんだと思っちゃいましたね」と相手を崩す。帰りの車中ではすでに二人の心は決まっていたと、笑顔で振り返る。

健やかに、ゆったりと、家族の歴史をつなぐ家



Text・Miho Ogihara / Photo・Ryosuke Kanai

大好きなこの家で、本当に気に入ったものを、
ひとつ、またひとつと手に入れながら、
ゆっくりと暮らしを作っていきたいと話すお二人。
彼らを選んだのは、
子へ、孫へとつないでいける本物の木の家。
おじいちゃんから受け継いだこの場所で、
新しい家族の歴史が紡がれていく。

HOUSE BUILDER

大工集団 くじらぐみ

山梨県北杜市大泉町西井出 8240-6959
Tel.0551-38-8151 Fax.0551-38-3979

<http://www.takahashi-kenchikusya.co.jp/>

▶30,000円分の旅行券をプレゼント

[一期一家アンケート]にご協力いただいた方の中から抽選で、1名様に晴耕雨読編集部より旅行券をプレゼントいたします。また[掲載ビルダーの資料請求]も、こちらからお申し込みいただけます。



FAVORITE POINT

どうしても叶えなかった、こだわりを紹介



屋根勾配を活用して
設けたロフト

シーズン家電などの収納に便利なロフトに窓を設け、「籠れる場所が欲しい」というご主人の希望を叶えるもう一つの部屋に。姿の良い階段が、リビングのアクセントになっているのもいい。



蘇った梁

代々受け継がれてきた蔵を解体した際に出た古材を洗浄し、梁として再生した。緩やかなカーブを描きながら縦横に走る様も、若いヒノキの大黒柱とのコントラストも美しい、この家のシンボル。

国産材と漆喰で造られたO様邸。室内には清々しい空気が満ちている。生活の場となる広々としたLDKは、高窓から程よい陽射しが差し込む心地よい空間。足触りがよく、すぐにでも裸足になりたくなる栗材の床は、床下エアコンの効果もあって真冬でも冷たさを感じなかったと、お二人が声を揃える。南側の格子戸を開けると、玄関から続く土間。庭を見渡せる大窓も魅力的な、愛犬「バディ」の部屋だ。一方、階段の先には屋根勾配を利用したロフト。秘密基地のような雰囲気が遊び心をくすぐる。専用のアプリをダウンロードして間取りを考えた、インターネットで建具やキッチンを探したりして、家づくりを存分に楽しんだという奥様。「これは!と思うたび写真を送信して相談しました。床下エアコンやドレッサー仕様の洗面台をはじめたくさんわがままを言わせていただいたのですが、くじらぐみさんはその都度きちんと受け止め、丁寧な仕事で仕上げてくださった。おかげで思い通りの家ができ、住み心地も最高です」と幸せそう。一方、「天然の素材と伝統的な工法を用いて本当に良い家を作ってもらいました。住めば住むほど味わいが出てくると聞いているので、そういう部分も楽しみながら年を重ねていけたら」としみじみと語るのをご主人。頭上では、先祖代々受け継がれてきた立派な梁が、若い二人を見守っていた。